

平成16年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果概要

観光客数〔推計実人数〕:	46,466千人	(対前年比 +3.2%)
日帰り:	42,236千人	(対前年比 +4.2%)
宿泊:	4,230千人	(対前年比 5.3%)
観光消費額〔推計〕:	259,266百万円	(対前年比 0.5%)
日帰り:	149,670百万円	(対前年比 +3.9%)
宿泊:	109,596百万円	(対前年比 5.9%)

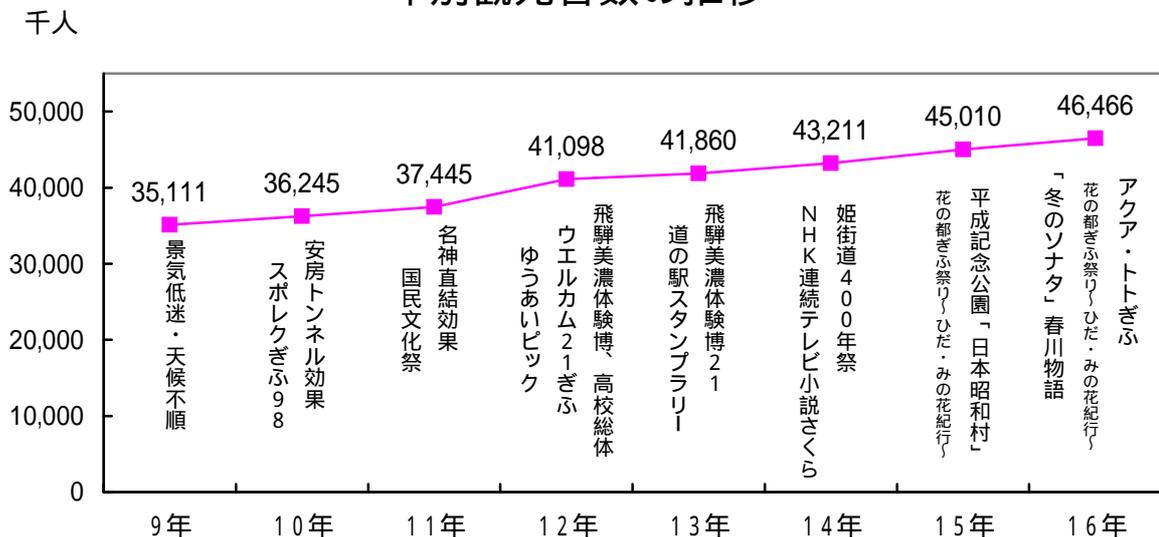
1 観光客数

県計の動向

宿泊客数が、前年に比べ台風等の影響により飛騨圏域で最大7.4%減少し、県全体で5.3%、238千人減少した。一方で、日帰り客数は、「岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ」(各務原市)や道の駅など、施設の新規オープンに伴う効果や、「花の都ぎふ祭り～ひだ・みの花紀行～」(全県)、「『冬のソナタ』春川物語」(各務原市)、「おおがき芭蕉生誕360年祭」(大垣市)などのイベント開催の効果により、4.2%、1,694千人増加した。県全体の観光客数としては1,456千人の増加となり、年々緩やかな伸びを示している。

- ・新規オープン施設の効果...主な新規オープン施設には、「河川環境楽園」内の「岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ」(各務原市)、「奥飛騨山之村牧場」(飛騨市)、「飛騨川温泉しみずの湯」(下呂市)や、道の駅では「志野・織部」(土岐市)、「おばあちゃん市・山岡」(恵那市)、「夜叉ヶ池の里さかうち」(坂内村)、「飛騨古川いぶし」(飛騨市)があった。中でも、「岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ」は7月のオープン以来多くの観光客を集め、新たな観光拠点となった。
- ・「花の都ぎふ祭り～ひだ・みの花紀行～」の開催効果...「花の都ぎふ」運動の成果を活かし、平成15年4月から17年3月までの期間、県内全域で花をテーマとしたイベント「花紀行10,000人コンサート」、「花街道ウォーキング」、「花の楽市楽座～花市華座ぎふ～」をはじめとする各種イベントを展開した。また、各種コンテストや情報発信事業を実施し本県のイメージアップと交流人口拡大による地域活性化を図った結果、日帰り客数の伸びが見られた。

年別観光客数の推移

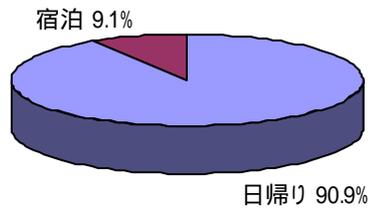


(1) 日帰り・宿泊別観光客数

平成16年の観光客数は46,466千人であった。

これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は42,236千人、宿泊客は4,230千人と日帰り客が全体の90.9%を占めており、昨年よりも日帰り客の割合が0.8ポイント増加した(図1、表-1)。圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も多く(構成比98.4%)、岐阜・中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。一方で飛騨圏域は、日帰り客67.3%、宿泊客32.7%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客4,230千人のうち2,283千人と全体の54.0%を占めている。

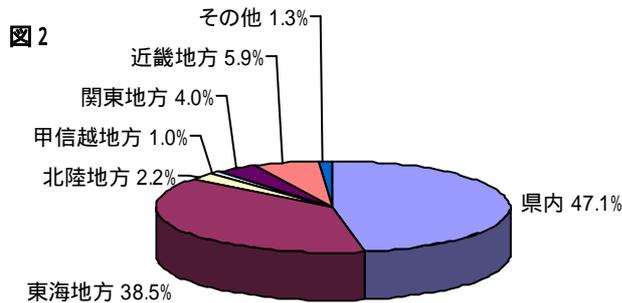
図1



(2) 居住地別観光客数

居住地別にみると、県全体では県内客は21,905千人(構成比47.1%)、県外客は24,561千人(構成比52.9%)で、特に飛騨圏域は県外客の割合が76.4%と高い。

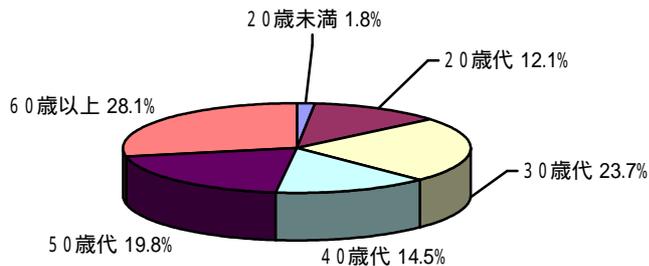
県全体では、県外客のうち7割以上が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。また、東海地方からの観光客の割合が特に多いのは、西濃圏域および東濃圏域である(図2、表-2)。



(3) 男女別・年齢別観光客数

男女別で見ると、男性23,992千人(構成比51.6%)、女性22,474千人(構成比48.4%)と男性が若干多い。年齢別では、60歳以上が最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている(図3、表-3)。

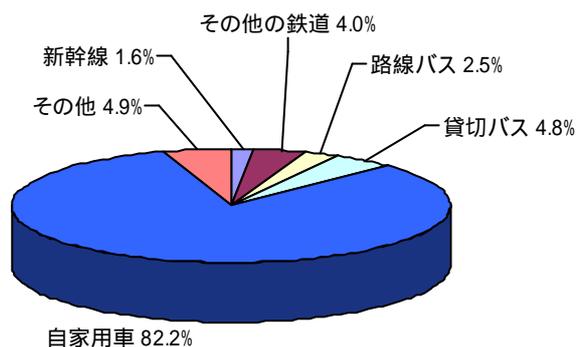
図3



(4) 利用交通機関別観光客数

利用交通機関別にみると、自家用車の割合が8割以上を占めている(図4、表-4)。一方で、飛騨圏域は自家用車以外の鉄道やバスの利用が33.1%ある。

図4



(5) 同行者別観光客数

同行者人数別に見ると、「2~3人」と「4~5人」で全体の約8割を占めており、少人数の観光形態の傾向に変化はない(表-5)。

同行者別に見ると、約6割が「家族」で、以下「友人・知人」、「自分ひとり」と続いており、「団体旅行」の割合は低い。ただし、飛騨圏域では旅行業者の募集等による「団体旅行」が他圏域に比べ高く15.3%を占める(表-6)。

(6) 観光地分類別観光客数

観光地分類別にみると、「文化・歴史」と「自然」で全体の4割近くを占め、以下「イベント」、「買物」、「スポーツ・レクリエーション」、「温泉」、「産業観光」、「行祭事」、「その他」と続く。

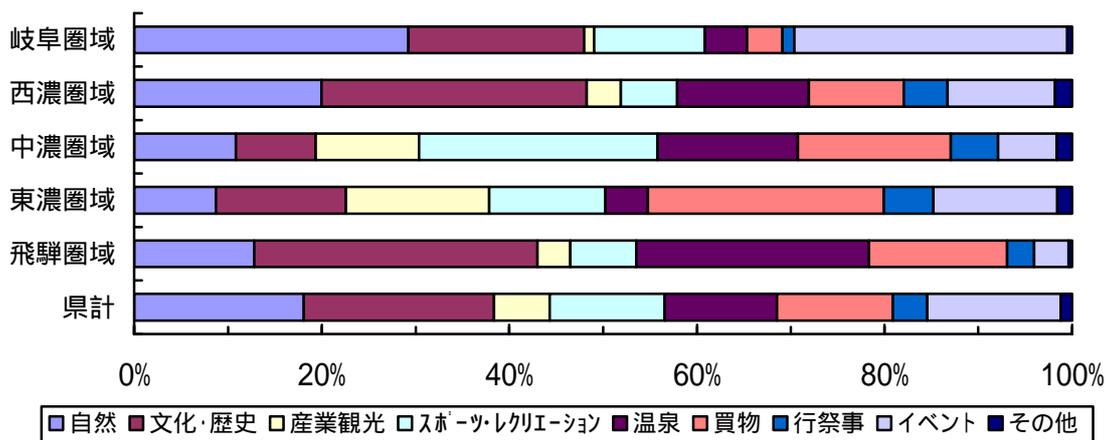
圏域別で見ると、岐阜圏域は「自然」や「イベント」、西濃圏域は「文化・歴史」、中濃圏域は「スポーツ・レクリエーション」、東濃圏域は「買物」、飛騨圏域は「文化・歴史」や「温泉」が多い(図5、表-7)。

	日帰り客数	宿泊客数	観光客数(合計)	対前年比
岐阜圏域	11,683	769	12,452	+8.0
西濃圏域	11,568	192	11,760	+8.2
中濃圏域	8,261	520	8,780	10.1
東濃圏域	6,020	466	6,487	+11.4
飛騨圏域	4,704	2,283	6,987	0.6
合計	42,236	4,230	46,466	+3.2

各圏域および県計の観光客数は、ともに実人数(1人の観光客が圏域内または県内の複数の観光地点を訪れても、圏域内または県内で2泊以上滞在しても、観光客、宿泊客はそれぞれ1人と数える。)を推計したものである。

$$(\text{観光客実人数}) = (\text{観光客延べ人数}) / (\text{平均訪問地点数(単位:箇所)})$$

図5



圏域の動向

<観光客実人数(推計)>

(単位:千人、%)

- ・岐阜圏域...日帰りと宿泊を合わせた全体の観光客数として昨年に比べ919千人増加した。「河川環境楽園」(各務原市)内に7月にオープンした「岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ」が多くの観光客を集め、「河川環境楽園」全体として、県内最多の4,547千人を集めた。人気ドラマ「冬のソナタ」で注目を集めた「『冬のソナタ』春川物語」(各務原市)も725千人と好調であった。一方で宿泊客数は、17千人減少した。
また他圏域と比べると、観光地分類別の「自然」、「イベント」の割合がそれぞれ約3割と高いのが特徴である(図5、表-7)。
- ・西濃圏域...昨年に比べ894千人増加した。特に大垣市では「おおがき芭蕉生誕360年祭」と題して、空き店舗を活用して元禄文化を再現する「元禄芭蕉回廊大垣」が開催されたり、駅前通りにおけるイルミネーションや特産品の販売が実施された。一方で、県域全体として宿泊客数は14千人減少した。
また他圏域と比べると、日帰り客の占める割合が最も多く(98.4%)(表-1)、居住地別では、県外客のうち東海地方からの割合が特に高いことが特徴である(表-2)。
- ・中濃圏域...昨年に比べて981千人減少した。観光地点別に見ると、昨年オープンした「平成記念公園『日本昭和村』」(美濃加茂市)の開園効果の反動、「刃物まつり」(関市)の台風による屋外イベントの短縮、「花フェスタ記念公園」(可児市)における「花フェスタ2005ぎふ」の準備工事の影響、奥美濃スキー場の減少(対前年1割減)などに

より、全体として大きく減少した。ただし、宿泊客数については微減であった。
また他圏域と比べると、観光地分類別の「スポーツ・レクリエーション」の割合が高いのが特徴である（図5、表-7）

- ・東濃圏域... 昨年に比べ665千人増加した。4月にオープンした「道の駅 志野・織部」（土岐市）や「おばあちゃん市・山岡」（恵那市）が大きな集客施設となった。また「セラミックパークMINO」（多治見市）ではガーデンフェスティバルや骨董市といったイベントが継続され観光客数が増加した。宿泊客数については、23千人減少した。また他圏域と比べると、居住地別では、県外客のうち東海地方からの割合が特に高く（表-2）観光地分類別では「買物」が多いのが特徴である（図5、表-7）
- ・飛騨圏域... 昨年に比べ40千人減少した。観光地点別に見ると、台風による災害等の影響により「高山市」や「高山祭」（高山市）「飛騨古川 古い町並み」（飛騨市）が減少した。一方で新規オープン施設「奥飛騨山之村牧場」（飛騨市）や、「飛騨川温泉しみずの湯」（下呂市）が好調であった。また、道の駅「奥飛騨温泉郷上宝」（上宝村）や「馬瀬美輝の里」（下呂市）はそれぞれ318千人、231千人の入込客があった。宿泊客数は、高山市、下呂市を中心に183千人減少した。
また他圏域と比べると、観光客数における宿泊客の割合が3割以上と多く（県全体：約1割）（表-1） 県外客の割合も7割以上と多い（県全体：約5割）（表-2）とといった特徴があり、鉄道・バスの利用（表-4）や、団体旅行の割合も高い（表-6）

< 参考：圏域別延べ宿泊客数の年別推移 >

（単位：千人）

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
岐阜圏域	1,270 (21)	1,180 (17)	1,109 (24)	1,046 (27)	1,024 (33)
西濃圏域	371 (5)	344 (5)	318 (5)	322 (6)	299 (6)
中濃圏域	757 (4)	806 (3)	796 (5)	760 (5)	757 (6)
東濃圏域	599 (4)	551 (4)	599 (2)	633 (2)	603 (2)
飛騨圏域	4,167 (22)	4,092 (31)	4,294 (39)	3,970 (37)	3,679 (47)
県計	7,164 (56)	6,973 (61)	7,116 (75)	6,730 (77)	6,361 (93)

表11（延べ宿泊客数）を年別にまとめたものである。1人の宿泊客が圏域内または県内の2箇所まで宿泊する場合、圏域内または県内で2連泊する場合、宿泊客はそれぞれ2人と数える。
また、下段のカッコ内は外国人の延べ宿泊客数である（内数）。

外国人延べ宿泊客数の動向

外国人の延べ宿泊客数は、SARSの影響による旅行需要の低迷の反動等もあり、また官民あげての外客誘致の取り組みの成果もあり、前年を21.0%上回る93,366人(対前年16,186人増)となり、平成12年以降連続して増加している（上表）。

2 観光消費額

平成16年の観光消費額の総額は259,266百万円（対前年1,275百万円減、0.5%減）で、そのうち日帰り客分は149,670百万円（対前年5,624百万円増、3.9%増） 宿泊客分は109,596百万円（対前年6,899百万円減、5.9%減）であった。これを1人当たりの平均消費額でみると、日帰り客は3,544円（対前年0.3%減） 宿泊客は25,907円（対前年0.6%減）であり、消費単価の減少はわずかであったことから、宿泊客数の減少が全体的な消費額の減少につながったといえる。

3 経済波及効果（推計）

平成16年の生産誘発額は367,067百万円（対前年2,020百万円減、0.5%減）で、就業誘発効果は40,429人（対前年421人減、1.0%減）となった。

<参考> 可児市の製造品出荷額等 346,615 百万円（H14 県工業統計調査）
海津郡（現海津市）の人口 40,473 人（H15 岐阜県人口動態統計調査）

4 「道の駅」の観光客数

平成16年末現在、県内に「道の駅」は42ヶ所あり、うち観光客数（利用者数）を把握している「道の駅」は35ヶ所であった。これら35ヶ所の観光客数の合計は、7,998千人であった。

前年と比較すると、35ヶ所中増加13ヶ所、減少12ヶ所、新設5ヶ所であり（他5ヶ所は両年が把握できていないため比較不能）、新設・比較不能を除く25ヶ所の利用者数では、193千人減（3.0%減）であった。これを圏域別で見ると、飛騨圏域の道の駅で減少が見受けられた。

【参考】調査の概要

本調査は、社団法人日本観光協会の「全国観光統計基準」に基づく。

1. 調査期間

平成16年1月1日から平成16年12月31日まで

2. 調査対象

(1) 観光地点

観光地点の定義

年間観光客が50,000人以上、または季節的観光客が月間5,000人以上

観光地点の分類

観光地点の分類は以下の区分による。ただし、上記の数を満たさない観光地点については、観光地点名を「その他」として掲載。

- ・「自然」...優れた自然環境であり、管理者が常駐している景勝地（山岳、高原、湖沼、河川景観、その他鍾乳洞など特殊地形）。
- ・「文化・歴史」...文化財や歴史的建造物を有し、管理者が常駐している施設（城郭、神社・仏閣、庭園、町並み、旧街道、史跡、博物館、資料館、美術館、動植物園、水族館、その他橋、駅、ビル、ダムなど建造物）。
- ・「産業観光」...広範囲な敷地を有し、管理者が常駐している工場、農園、市場、牧場、伝統工芸等の産業拠点（観光農林業、観光牧場、観光漁業、伝統工芸、その他の産業観光施設）。
- ・「スポーツ・レクリエーション」...管理者が常駐している施設。
ただし、小規模の施設、地元利用者が大半を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定（ゴルフ場、スキー場、テニス場、アイススケート場、サイクリング場、ハイキングコース、キャンプ場、自然歩道・自然研究路、大規模公園、レジャーランド・テーマパーク、複合的スポーツリゾート施設、その他スポーツ・レクリエーション施設）。
- ・「温泉」...温泉あるいは鉱泉の湧出する地域であり、管理者が常駐している施設、地域（温泉、その他入浴施設）。
- ・「買物」...管理者が常駐している施設。

ただし、小規模の施設、地元の利用者が大半を占める施設は除外し、観光利用の対象にな

っているものに限定（道の駅、複合的ショッピング施設、ショッピング街、朝市・市場、郷土料理店・レストラン）。

- ・「行祭事」...地域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、定期的に行われる大規模な行祭事（行祭事、郷土芸能、地域風俗）。
- ・「イベント」...常設もしくは特設の会場において、一定の成果を期待して人や金を集めることを目的として行われる大規模なイベント（博覧会、展示会、見本市、コンベンション、国体、花火大会）。

（２）宿泊施設

宿泊施設の定義

管理者が明確で常駐しており、毎日の利用者数を確実に把握することができ、宿泊に必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設。ただし、個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居、同伴ホテル・旅館、カプセルホテル等は除外。

3. 調査実施機関

県、市町村（平成16年末時点の市町村の別による）